

# アマゾン号に乗りたい！

製作記 ▾

造船方法 ▾

アーサー・ランサムの世界 ▾

Blog

Contact

## 実在の船

*But a real voyage at last. - Titty (Ransome, Arthur. (1937) We didn't mean to go to sea. Cape. p.151.)*

「釣り」と「帆走」、ランサムがこの二つに傾ける情熱は並々ならぬものがあります。生涯で最初の外洋帆船である「ラカンドラ(Racundra)」の航海はただ一つの航海記となって残っていますが、ウインダミアに住んでいる間に書かれた物語も「ツバメ号(Swallow)」や「メイヴィス号(Mavis)」での帆走体験から生まれてきた航海記なのかも知れません。夜間航海、レースの様子、難船の場面、さらには氷上ヨットまで、その描写は実に細部におよんでいます(おかげで「帆走入門書」を読まないとなんのことやら分からない箇所もあるのですが・・・)。プローズを舞台にした二つの作品、そして北海横断を描いた7作目にもランサム自身の経験がふんだんに盛り込まれているはずです。

ランサムが20歳の時に出会った初代「ツバメ号」をはじめとして、物語に登場する様々な船をとり上げます。

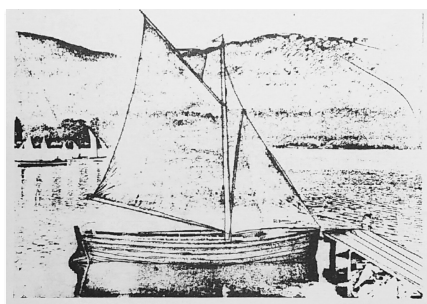
### CONTENTS

1. 帆走の日々
2. 初代ツバメ号
3. ツバメ号やアマゾン号
4. Cochy
5. Esperance
6. Racundra
7. Norfolk Wherries

### TOPICS



ランサムが帆走した船の数々



ランサムが帆走を覚えた初代ツバメ号



物語の主人公となった2ハイの船





スカラブ号のモデルになったディンギー



フリント船長の屋形船「巨象号」のモデルと  
なった船



ランサムに航海記をもたらした夢の船



ノーフォーク湖沼地帯のNorfolk Wherries

ランサムの物語に心奪われた少年がこ  
こまで来た

旧サイトのコンテンツを移行しました

transported from my  
previous site

© 2018 アマゾン号に乗りたい！・ログイン